

第3報 Semantic Differential Method による典型食品の分析

帯廣大谷短期大学 生活科学 ○山下 昭 池添 博芳

目的 食物の選擇性と密接な関連性をもっている食品のイメージは、食品の特性等食品自身の形態と共に、攝取者の性格、体験等多くの要因によって影響され、形成されていく。我々は食品に関するイメージの分析を実施しているが、ある概念の肉体的な意味を測定するのに用いられる semantic differential method を食品の評価に適用し、典型食品の評価分析を試みたので報告する。

方法 食品の形態及び食品の味とイメージについて、食品と人間との関連性を表わす、11組22種の對應する語を並び、對應語を両極とし、その間を7項目に區分した。各區分には重みを加え、語彙別に集計して値を出し、更に11項目の平均値を算出し、これを semantic profile value とした。11項目の各値による pattern、即ち semantic profile pattern および profile value より對應食品のイメージ評価について分析した。

結果 日本を北海道とそれ以外の地域に分けると、各々を代表せせると思われる典型食品は、前者ではジャガイモ、トモロコシ、後者ではサツマイモ、ブドウとなり、それらの semantic profile の平均値では、ジャガイモ 0.590 と低く、ついでサツマイモ 1.179 でブドウとトモロコシは似ており 1.329 と 1.333 である。日本および外國の典型食品および調理品では、日本では 米 1.007、魚 0.530、味噌 0.079 および せしめ 1.282、すし 1.785、うどん 1.170 であり、外國では パン 1.011、牛肉 0.765、バター 0.907、スノググティ 1.254、カレーライス 0.907、ピッツァ 1.534 で日本のすしと外國のピッツァの profile value が高く、味噌の値はかなり低かった。